

# 第3期 福井県教育振興基本計画

## (R2～6)の主な成果

## 基本理念

『一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり  
～ 子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進 ～』

## 目指す人間像

- ① 自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人
- ② 多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人
- ③ ふるさとや自然を愛し、いづどこにいても社会や地域に貢献する人

## 第3期計画における「施策の方向性」

### 基本理念、目指す人間像の実現に向けた施策

- 方針1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成
- 方針2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進
- 方針3 豊かな心、健やかな体の育成
- 方針4 国際的な視野に立ち、自ら考えを発信する力の育成
- 方針5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備
- 方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成
- 方針7 生涯にわたる学びの支援
- 方針8 新たな時代を見据えた教育環境の整備

### 特に重点的に推進する施策

- ① 子どもの主体性を大切にし、「個性を引き出す」教育の推進
- ② 子どもが知的好奇心や探究心を持ち、「学びを楽しむ」教育の推進
- ③ 地域に貢献しようとする心を育む「ふるさと教育」の推進
- ④ 「教職員が輝く」働き方改革の推進

# 方針1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成①

## ○学びの変革、環境の充実



タブレットを活用した協働学習

**全国に先駆けて一人一台のタブレット端末を整備** (R2.12月)

子どもたちが授業内外で自ら調べたり、話し合いながら協働するなど「子どもたちが楽しく主体的に考える学びの進化」の基盤を形成するとともに、**学習支援アプリやデジタル教科書等の活用**を推進



地域のごみ問題を大人と議論(小学校)

地域の人々や企業等と協働して自らの興味関心事への学びを深める**探究学習を推進**。「**地域コーディネーター**」の配置、「**ふくい探究学習サポート企業**」の募集(R5～)等を実施し、学校の取組みを促進

- ・地域コーディネーター 全ての小中学校に配置
- ・ふくい探究学習サポート企業 41社・団体



「授業づくり」をテーマにした研修会

**「引き出す・楽しむ教育」の推進**のため、

小中学校の取組み・報告書を「ふくいわくわく学びWeb」上で情報共有するとともに、生徒による「子どもミーティング」の開催(R3・4)や、「学校づくり」と「授業づくり」をテーマとした教職員研修・学校訪問を実施(R3～)



少人数指導の様子

**福井県独自の少人数学級編制を推進**し、国に先駆けて小学校全学年で35人学級を実現(R3～)、中学校では国の基準よりも大幅に少人数化を進め、全学年で32人学級編制を実現(R2～)

# 方針1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成②

## ○県立学校の魅力化・特色化



県立高校PRチラシ

子どもの興味関心に応じた学びができる**新しい学科・コースを創設**(R4)

足羽高校 普通科キャリアデザインコース、多文化共生科  
武生東高校 学際フロンティア学科  
勝山高校 探究特進科  
若狭東高校 ビジネス情報科 等、9校9学科3コースを創設



大学教授から実験の助言を受ける様子

県内高校4校が**SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定**を受け、理数情報系の教育を充実、科学者・技術者を目指す才能ある人材の発掘・育成を推進。  
また、9校が**DXハイスクールの採択**(R6)を受け、ICTを活用した文理横断的で探究的な学びを強化し、デジタル等成長分野を支える人材を育成



地元企業との共同研究

**マイスター・ハイスクール**事業に県立高校2校が指定を受け(R3~5)、地域産業を担う人材育成や先端技術の開発強化に向け「坂井高校コンソーシアム」を創設し、企業と連携した課題研究を県内に波及



地域みらい留学2期生 市長表敬訪問

県立高校2校で**地域みらい留学による全国募集**を実施(R5~)するとともに、合わせて**新たな寮を整備**。県外生徒と県内生徒との協働、地域イベントへの参加等により高校と地域の活性化を推進

・留学者数 2校19人(R5~)

## 方針2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進



総合文化祭開会式の様子

**第44回近畿高等学校総合文化祭福井大会を開催**(R6)。近畿10府県の高校生による文化芸術活動の発表を10年ぶりに開催。「福いっぱい文化の花 笑顔の花を咲かせよう！」をテーマに吹奏楽部門など計16部門を実施

・参加者数 生徒5,350人(県内2,790人)など合計12,747人



ふくいジュニアアスリートアカデミー

トップアスリートを目指す児童を対象にアスリート育成プログラムを提供する「**ふくいジュニアアスリートアカデミー**」を開催

・参加者数 小学5・6年生205人(R2～)



地域文化クラブ(吹奏楽)の様子

持続可能な子どものスポーツ・文化芸術活動の機会確保と、教員の負担軽減を両立するため、中学生の休日部活動の段階的な「**部活動地域移行**」を推進(R4～)

・休日に活動する約740部活動のうち、R6末までに約350部活動が地域に移行

## 方針3 豊かな心、健やかな体の育成



県内小学生の活動の様子

楽しみながら運動するきっかけ作りのためのサイトとして「**はぴりゅうスポーツ広場**」を構築。県内小学生約38,000人を対象にR6.4から運用開始し、98%以上の児童が登録済。授業だけでなく朝活動や休み時間等での利用が拡大



(左)推奨図書 小冊子、(右)養成講座

読書活動の推進のため、子どもの成長段階に応じた**推奨図書を選定**し、3種類の小冊子を作成・配布。また、児童生徒を対象に**ジュニア司書養成講座を開催**

・ジュニア司書認定者数 258名 (R2～)



総合体育大会の様子

**令和3年度全国高等学校総合体育大会**の総合開会式と13競技14種目を、感染症対策を講じて県内で開催。高校生活動推進委員・活動委員として、県内21校から221人が大会の成功に向けて準備、運営等に参画

# 方針4 国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成



全国高校生プレゼン甲子園決勝大会

県と一般社団法人プレゼンテーション協会が連携協定を結び、**全国高校生プレゼン甲子園を開催**(R3~)。互いにプレゼンを競い合い、これからの社会に必要な表現力や対話力等を育成

- ・参加チーム 全国から755チーム(R6)



検定のために動画を作成している様子

職業系高校において簡単な英語で福井のことを紹介するための動画を作成する**「福井県ふるさとツーリズム英会話検定」**を実施し、ふるさと福井に誇りを持つことができる生徒を育成

- ・合格者(R3~6) 4級:7,161人 3級:487人 2級:66人



オンライン交流の様子

海外の学生と社会的な話題についてディスカッション等を行う**「オンライングローバルキャンプ」**を開催。交流を通して異文化に対する視野を広げるとともに、語学力を養成

- ・参加者数 県内16校から71人(R3~)



中学校授業づくり研修会

県内各公立中学校3年生を対象に**GTECの受験料を全額支援**。結果分析資料等をもとに生徒の学習改善と教師の授業改善を図るため、県内5会場にて「中学校授業づくり研修」と動画研修を実施

- ・GTEC受験者数 25,464人(R2~)

# 方針5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備



カウンセラーによる相談対応の様子

## スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置を充実し、専門家の視点から子どもの相談に応じられる体制を整備

### 【R6配置実績】

- ・スクールカウンセラー 約100人(全ての公立小中学校、県立学校をカバー)
- ・スクールソーシャルワーカー 約30人



校内サポートルーム

## 不登校傾向にある児童生徒に対し、校内の**教室とは別の居場所づくり**と、自己実現及び児童生徒が抱える課題や多様なニーズへの支援を目的として「**校内サポートルーム**」(R4～)を設置

- ・配置校 小学校25校、中学校25校(R6)



中高生に配付している周知カード

## SNSを通じた相談窓口を開設(R2～、夏季休業明け前後および土日祝日の17時から21時)するとともに、教育総合研究所の「24時間電話相談」の周知徹底等を図り、**学校時間外での教育相談体制を充実**

# 方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成①

## ○ふるさとと教育



「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」



「ふるさと福井CMコンテスト」受賞作品



福井ふるさと教育フェスタでの成果発表



「これきサーチ」で調べる様子

地域に関わる体験・探究活動等を通じて気付いたふるさとの良さを発信する「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」(R2～)や「ふるさと福井CMコンテスト」(R3～)を開催

### 【R6参加実績】

- ・ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会 小学校7チーム、中学校8チーム
- ・ふるさと福井CMコンテスト 小学校79作品、中学校33作品、高校126作品

県内小中学生が一堂に会し、ふるさと学習や伝統芸能活動の成果を発表したり、素晴らしい実践や発信をしている子どもたちを表彰・紹介する

「福井ふるさと教育フェスタ」を開催 (R1～)

### 【R6参加実績】

- ・390名(ステージ・プレゼン発表 小学生86名、中学生40名 等)

こども歴史文化館で紹介中のふくい先人の先人(歴史上の人物)や展示について検索できるシステム「これきサーチ」公開(R5.3)。小中学生が校外での調べ学習を行う際等に利用

- ・校外学習での利用者数 718人(R6)

## 方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成②

### ○産業人材の育成



「ふくいの産業」の様子

県内すべての職業系高校がオンライン一斉講義により、地域の産業や企業を学ぶ  
**本県独自の共通科目「ふくいの産業」**を実施(R3～)  
・62の企業・団体が講座(R3～6)



全国高校生ビジネスアイデアコンテスト

職業系高校の生徒による**「全国産業教育フェア福井大会」**を開催  
(R5、「全国高校生ビジネスアイデアコンテスト」同時開催)

- ・フェア参加者数 延べ25,000人超
- ・ライブ配信視聴数 15,000回超え
- ・コンテスト参加実績 全国89チーム

このほか、高校生の技能系資格取得等を支援する**「福井フューチャーマイスター制度」**を実施

- ・認定件数 7,569人(R2～6) ※対象生徒の約83.7%

## 方針7 生涯にわたる学びの支援



福井ライフ・アカデミー主催講座

**ふるさと未来講座をオンラインで受講できる環境**を整備し、幅広い世代・地域における生涯にわたる学びを推進。

また、現地を訪ねる**「ふるさと探究講座」**を開催し、体験等を通して福井の魅力を感じ取る学びを提供

- ・オンライン受講者数 約860人(R3~R6)
- ・ふるさと探究講座開催数 25講座(R2~R6)

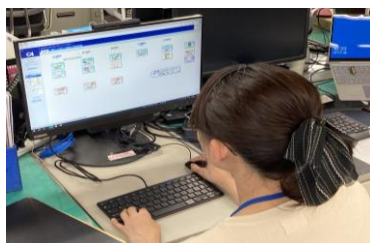


自然の豊かさについて学ぶ様子

地域清掃や環境学習、世代間交流事業など、各社会教育関係団体(海洋少年団、婦人会、子ども会、ガールスカウト、ボーイスカウト、「小さな親切」運動)が行う**SDGsの目標に向けた活動を支援**(R3~)

- ・活動件数 87件
- ・参加者数 約5,780人

# 方針8 新たな時代を見据えた教育環境の整備



校務支援システムを活用

校務DX化に向けて、欠席連絡等をweb上で行える**校務支援システム**や採点作業を自動化する**デジタル採点システム**を導入

- ・県の校務支援システム導入(13市町)
- ・デジタル採点システム導入(全県立高校、中学校26校)

また、**GIGAスクールサポートセンターを設置**(R3~)し、教職員への専門家支援を行うとともに、県の目指すべき方向性や施策をまとめた「**福井県学校教育DX推進計画**」を策定(R4)



WEB出願システムの入力画面

**県立高等学校等の入試におけるWEB出願システムの導入**により、電子出願によるペーパーレス化するとともに、受験料振込みによる手続きを簡素化

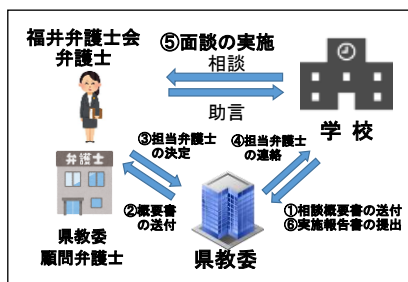
- ・利用者数 5000人(R7年度入学者選抜)

**学校運営支援員や部活動指導員**等、教職員をサポートする外部人材を配置

【R6配置実績】

- ・学校運営支援員 262人
- ・部活動指導員 305人

学校に**スクールロイヤー**を配置(R2~)し、学校現場における様々な問題解決に向けて助言する**法律相談体制**を構築



スクールロイヤーの相談体制

# 福井県学校教育DX推進計画の成果

## 主な施策と結果

施策	結果	状況
子どもたちが楽しく主体的に考える学びの進化 各教科の特性や子どもたちの発達段階等に応じたタブレット活用事例を共有	継続	デジタル教材導入率:小中 約80%、高校100% 県のHP「わくわく学びWeb」にて実践事例等を全県の学校に共有
海外の学生との英会話など、オンラインによる生きた英語学習を推進	完了	職業系高校において、オンラインによる海外の学生とのマンツーマン英会話を年に3回実施
大学と連携し、高校にデータサイエンスを学ぶ専門科目を新設	完了	若狭高校にデータサイエンス科目設置(R7~)
スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の相談業務やケース会議にICTを活用し、子どもたちへの支援を強化	完了	新たに対象者全員に配備し、カウンセリングや会議に活用
学校DXの専門家や県内外において先駆的なICT教育を進める教員を招いて研修	完了	県学校DX戦略アドバイザーの平井聡一郎氏による講演会や県内のICT活用の授業名人による研修を計10回開催
デジタル教科書やタブレットの活用等を積極的に進める小中学校を「ICT教育推進モデル校(仮称)」として指定し、重点的に支援	完了	モデル校を82校設置、有効な使用方法を研究し、成果を研究授業等で共有
「福井県学校教育DX推進協議会(仮称)」を設置し、市町教育委員会との連携を強化することにより地域格差を解消するとともに教育水準を向上	完了	R5.4に設置、これまで8回開催し市町間の格差是正に向けた調査結果の共有や共同調達を協議
授業等でのICT活用やデータサイエンスを研究する「ICT教育サポートセンター(仮称)」を教育総合研究所に設置し、先進的事例の共有、研修、相談窓口による対応等を実施	完了	R5.6に設置し、電話、メール、Web会議等による支援を450件以上行い、学校の要望に応じた事例や活用例を提供
大雪や大雨等の災害時および感染症拡大等の非常時に、家庭においてオンライン授業を円滑に実施	完了	学級閉鎖等に備え、市町ではルーターの貸出や持ち帰り学習を実施 非常時において79%の県立学校でオンライン授業を実施
教員が楽しく快適に進める環境づくり 端末を通して課題等を直接配付・回収したり、連絡帳やお便り、欠席連絡を行うことにより、業務の効率化とペーパーレス化を推進	完了	デジタル教材導入率:小中 約80%、高校100%(再) 県が提供する校務支援システム導入市町数(R4)10市町→(R7)15市町 欠席連絡にICTを活用している学校 88% 保護者連絡にICTを活用している学校 98%
研修や会議等をオンラインや在宅で実施し、教員の時間を確保	継続	安全にリモートワークができる環境をR7の校務支援システム更新時に整備し、オンラインによる働き方改革を拡充していく

今後もDX推進にかかるさらなる取り組みと新たな課題を新教育振興基本計画に盛り込み進めていく

## ふくいの教育 ミライレポート

教育現場の意見や県内の現状分析などを取りまとめ、  
教職員の働き方や教育行政施策などの方向性を全ての学校に発信



ふくい教育ミライ会議の様子

### (1)「働き方改革」編

#### ①R6.9 ver1.0

教職員WEBアンケートや、県教育長が若手教員等と意見交換をする「ふくい教育ミライ会議」の結果を踏まえ、学校業務改善の進め方などを発信

#### ②R7.1 ver1.1

各学校での業務改善の進捗状況や具体的な事例などを共有

#### ③R7.2 ver1.2

県の来年度予算内容や、「働き方改革」と「子どもが主役の教育」の方針を説明

### (2)「不登校支援」編

#### ①R6.12 ver1.0

保護者との意見交換で出た切実な声や、全国調査の分析結果を踏まえ、今後の学校づくりや生徒指導のあり方、保護者とのつながりの持ち方、県教育行政施策などを発信



「働き方改革」編レポート

今後もレポートを充実し、県教委と学校の意思疎通、教職員の意識啓発を推進

# タブレット端末の更新

タブレット端末の円滑な更新に向けて、市町と連携して共同調達を行うとともに、県立学校においては公費による整備を継続



新タブレット体験会(R6.6)

体験会には全17市町が参加し、使用感を踏まえた意見交換を実施  
小中学校分は県を中心に各市町の意向を取りまとめてOSごとの分科会を開催  
性能・価格面だけでなくこれからの学びでの活用方法の提案も仕様を含めたプロポーザル方式による共同調達を実施



タブレットを活用した個別学習

県立学校のすべての生徒に公平な学習環境を提供するため、公費にて更新予定  
教員および現場の意見を集約し、これからの学びに必要な性能を検討  
14校程度をモデル校に指定してAIを活用した先進的な学習用アプリを導入し、  
学びの変革を推進

今後、市町や学校と連携したアプリ整備等、ICT教育環境のさらなる改善を推進

# 地域デザイン講座

福井県の現状・課題や地域政策について学び、  
「地域の未来」と「自らの将来」を結び付けて考える機会を創出



講座の様子(勝山高校)

R6.7羽水高校での開催を皮切りに、令和6年度中に県内高校20校で開催。

教育長自らがワークショップのファシリテーターとなり実施  
県の「長期ビジョン」や北陸新幹線県内開業などを交えて、  
今後の福井の未来と、それを踏まえた自分の将来を構想



講座後の記念撮影(若狭高校)

受講後の生徒アンケートでは、  
「ふるさととの関わり方は多様であるということに気づけた」  
「福井をよりよい地域にできるように将来何か貢献したい」  
など前向きな感想が多く寄せられ、  
約90%の生徒が「福井県の未来に希望が持てる」との回答

今後、県内全域に取組みを拡大し、「ライフデザイン教育」を推進

## 新たな取り組み④

# 「学びをつなぐ 希望のバトン カリキュラム」の見直し

幼児期の「遊び」から「学び」の基礎を培い、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を推進するため、接続カリキュラムを拡充



カリキュラム表紙

幼児教育力向上会議での意見交換や養成研修などを通して、R7.3に「学びをつなぐ 希望のバトン カリキュラム『ふくい18年教育』」を策定

これまで3～6歳を主な対象だったが、0～2歳の遊びのプロセスを追加するとともに、0歳～小学1年生までの事例を追加するなど内容を拡充し、0歳から18歳までの探究者としての成長の歩みを提案

今後、0歳から18歳までの育ちや学びの連続性・一貫性について社会全体での共有を図り、幼小中高大のトータル教育を推進

# ふくい教育チャレンジアワード

教職員のやりがいや挑戦する意欲を引き出すため、  
学校現場での創意工夫を顕彰



表彰式の記念撮影

令和6年度に初開催。

「学びを引き出す部門」と「働きやすさ向上部門」の2部門を募集、  
合計81チーム・個人の応募があり、うち20チーム・個人を表彰



表彰式での懇談会

受賞者の選定を教職員の投票により行ったほか、  
表彰式で取り組みを発表し合ったり懇談の場を持ったりするなど、  
教職員がお互いの仕事を称賛し合う風土づくりや、  
好事例を県内に広めていくための場としても活用

今後、チャレンジアワードに加え、教職魅力発信ディレクターが「今の学びの様子」や  
教職の魅力積極的に発信